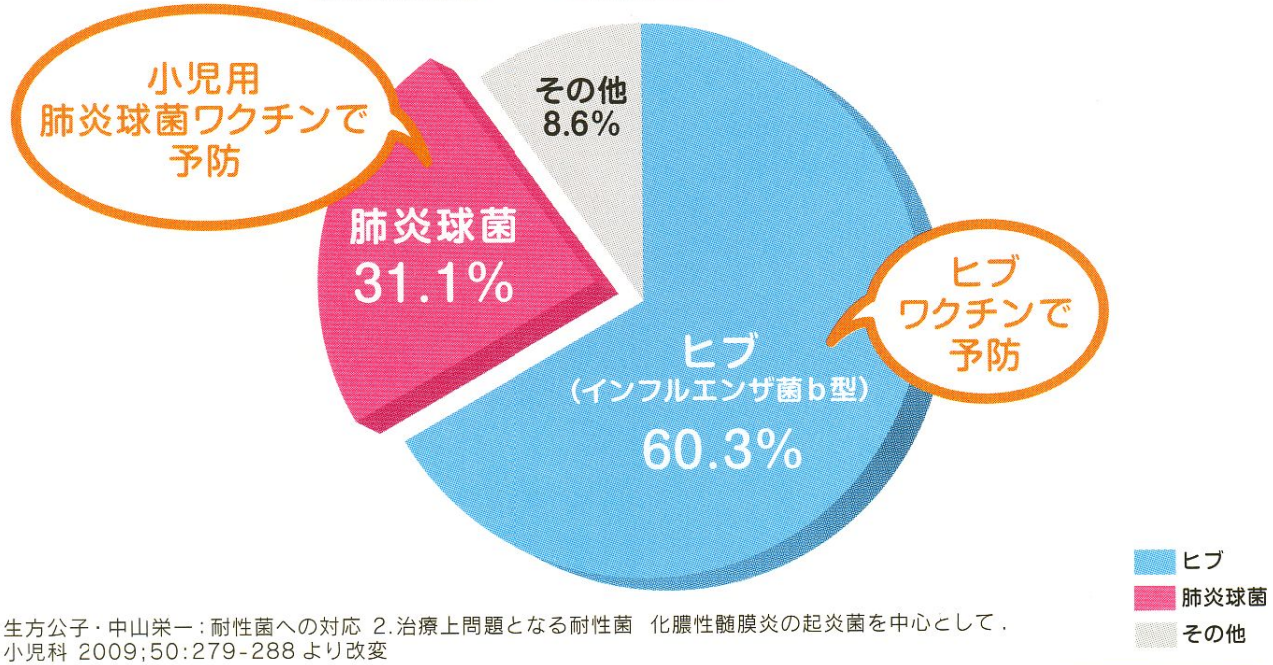
細菌性髄膜炎は
2つのワクチンで予防しよう

日本での細菌性髄膜炎の原因

ヒブ ＋ 肺炎球菌 ＝約80～90%



生方公子・中山栄一：耐性菌への対応 2.治療上問題となる耐性菌　化膿性髄膜炎の起炎菌を中心として．
小児科 2009;50:279-288 より改変

●主な原因はヒブと肺炎球菌（はいえんきゅうきん）。予防にはそれぞれのワクチンを接種

●標準的なスケジュールでは、生後2か月～6か月までに接種をはじめ、0歳代で3回接種した後、1歳代で1回接種する

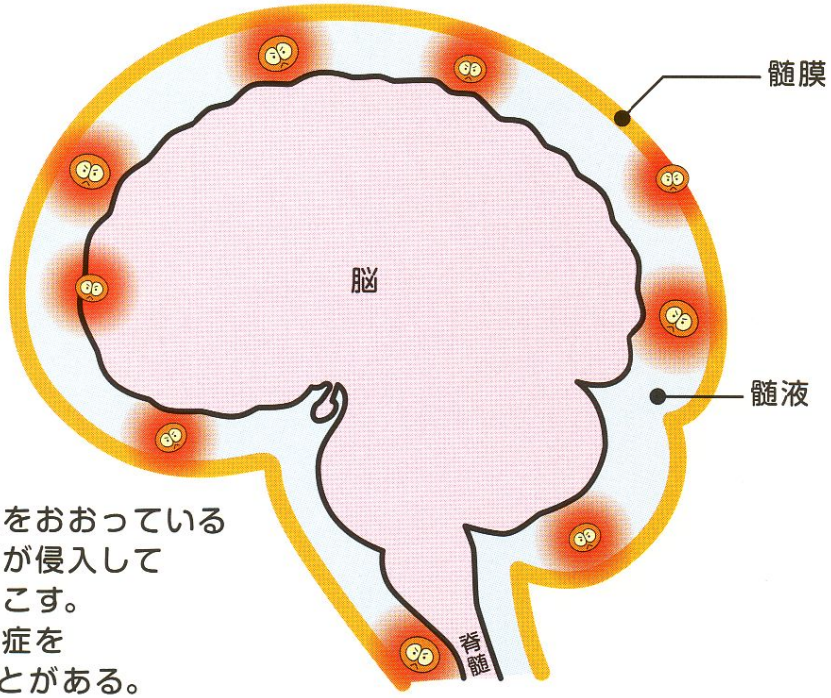
※1 ヒブワクチンは5歳未満、小児用肺炎球菌ワクチンは10歳未満まで接種できます。
※2 細菌性髄膜炎のデータは調査対象や調査年によって少々の差異があります。

監修　川崎医科大学小児科　中野 貴司 先生

細菌性髄膜炎の予防ワクチンは2か月から

細菌性髄膜炎は

子どもの命にかかわるこわい病気



脳や脊髄をおおっている
髄膜に菌が侵入して
炎症をおこす。
脳にも炎症を
おこすことがある。

- 初期症状は、急な発熱や嘔吐など風邪に似ていて早期の診断がむずかしい
- 薬のうまく効かないケースでは、治療がむずかしい
- 死亡や重い障害が残ることが少なくない

細菌性髄膜炎は

乳幼児がかかりやすい病気

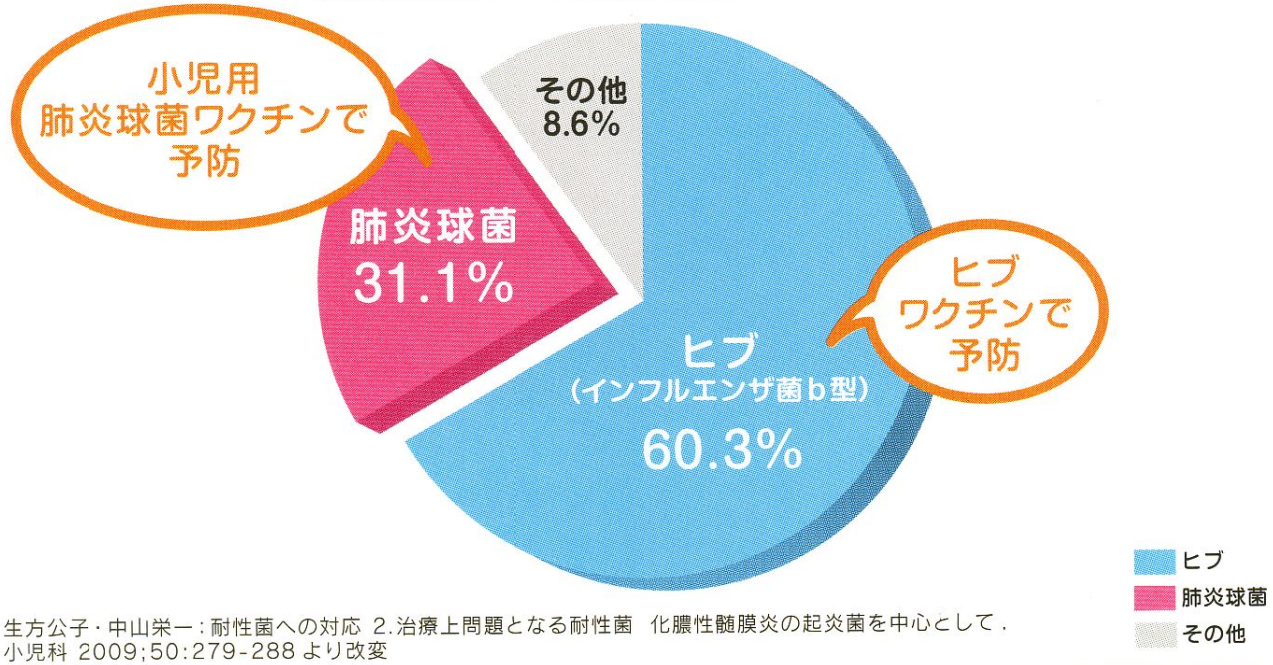
- 毎年、日本で約1,000人の子どもたちがかかっている
- かかった子どもの半分以上は、0歳児
- 年齢とともに減ってくるが、5歳ごろまでは危険年齢

※肺炎球菌が原因の髄膜炎は5歳を過ぎても、かかることがあります。

細菌性髄膜炎は
2つのワクチンで予防しよう

日本での細菌性髄膜炎の原因

ヒブ ＋ 肺炎球菌 ＝約80～90%



生方公子・中山栄一：耐性菌への対応 2.治療上問題となる耐性菌　化膿性髄膜炎の起炎菌を中心として．
小児科 2009;50:279-288 より改変

●主な原因はヒブと肺炎球菌（はいえんきゅうきん）。予防にはそれぞれのワクチンを接種

●標準的なスケジュールでは、生後2か月～6か月までに接種をはじめ、0歳代で3回接種した後、1歳代で1回接種する

※1 ヒブワクチンは5歳未満、小児用肺炎球菌ワクチンは10歳未満まで接種できます。
※2 細菌性髄膜炎のデータは調査対象や調査年によって少々の差異があります。

ワクチンで予防できる子どもの病気

ワクチン	ワクチンで防げる病気
三種混合（DPT）ワクチン	ジフテリア・百日咳・破傷風
BCG ワクチン	結核
ポリオワクチン	ポリオ（小児まひ）
麻疹・風疹混合（MR）ワクチン	麻疹（はしか）・風疹（三日ばしか）
日本脳炎ワクチン	日本脳炎
小児用肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌による細菌性髄膜炎など
ヒブワクチン	ヒブによる細菌性髄膜炎など
みずぼうそうワクチン	みずぼうそう（水痘）
おたふくかぜワクチン	おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）
B型肝炎ワクチン	B型肝炎
HPVワクチン	子宮頸がん
インフルエンザワクチン	インフルエンザ

ヒブ：インフルエンザ菌b型（Hib）　　HPV：ヒトパピローマウイルス

あなたは、いくつ知っていますか？

細菌性髄膜炎（さいきんせいずいまくえん） 知識度チェック！

- □子どもの命にかかわる病気である
- □病気のはじまりは急な発熱や嘔吐（おうと）など風邪（かぜ）に似ていて、発見がむずかしい
- □治療のための薬がうまく効かないケースがある
- □かかる子どもの半数以上は0歳児だが、5歳ごろまでは危険年齢[1)]
  ※ 肺炎球菌による髄膜炎は5歳を過ぎてもかかる例があります。
- □ヒブと肺炎球菌（はいえんきゅうきん）が主な原因菌（2つあわせて原因の約80－90％[2)]）
- □細菌性髄膜炎はワクチンで予防できる病気（VPD）である
- □ワクチンは生後2か月から接種できる（任意接種）
- □予防にはヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンを接種

1) 平成19－21年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）
「ワクチンの有用性向上のためのエビデンス及び方策に関する研究（研究代表者 神谷齊）」
2) データは調査対象や調査年によって少々の差異があります。砂川慶介ら：本邦における小児細菌性髄膜炎の動向（2007-2008）感染症誌 2010;84:33－41
生方公子・中山栄一：耐性菌への対応 2.治療上問題となる耐性菌 化膿性髄膜炎の起炎菌を中心として．小児科 2009;50:279－288
※ ヒブ＝インフルエンザ菌b型　　VPD＝Vaccine Preventable Diseases

細菌性髄膜炎について、くわしくは 子どもと肺炎球菌 検索
http://www.haienkyukin.jp

Pfizer ファイザー

PRV57A003A

2010年11月作成